



心ゆたかに

三芳町立藤久保中学校 学校だより 第1号

学校教育目標 「自ら考え進んで行動する生徒」

令和7年4月15日(火)発行 文責 菅谷 和孝



新 HP

「CHALLENGE」

校長 菅谷 和孝

今年度新たに104名の新生を迎え、2年生95名、3年生98名、全校生徒数297名、教職員総数37名で令和7年度がスタートしました。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。在校生の皆さん、進級おめでとうございます。藤久保中学校に着任し校長2年目となりました。今年度から日課表を大幅に改定し、「生活のきまり」や生徒が考えた「ネット利用ルール」もリニューアルしました。詳細は学校ホームページにも記載しておりますので、学校・家庭・地域の皆様がチームとなって、生徒の成長をサポートしていければと思います。引き続き、「全ては生徒のために」を心がけ、教職員一同全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



さて、今年度の入学式において披露させていただきました式辞をご紹介します。

みなさんは目標を立てるとき、どのように立てますか。また、目標を達成するプロセス(過程)はどのように設定しますか。何かを実行するとき、きちんと目的をもって行って行動していますか。なんとなく漠然と行っていませんか。

みなさん、大阪にUSJ(ユニバーサルスタジオジャパン)という施設(会社)があるのはご存じだと思います。今は年間来場者数1600万人と世界を代表する企業にまで成長をしているUSJ。開業前から注目が集まっており、東のディズニーランド、西のUSJと期待され、開業初年度の累計入場者数は目標の800万人を大きく上回り1100万人を突破したとのこと。しかし、開業2年目にして様々な理由から状況は一転し入場者数は700万人台にまで転落。しかし、この状況から大胆な改革をし、2015年には入場者数が東京ディズニーシーを抜いて、世界のテーマパークで4位にランクインするほどになりました。そのV字回復の仕掛け人と言われているのが森岡 毅(もりおか つよし)さんです。その他にも多くの企業をV字回復させた森岡さんですが、行動や目標達成に対しての考え方でこのようなことを言っています。「失敗してもいいとにかく前向きにやってみる それが大切な経験に変わる」という言葉です。

目標を達成する際、頑張った方が結果が出やすい。それは当然のことで、成功体験としても嬉しいですし、このようなことばかり続けば楽しいと思います。しかし、森岡さんは成功体験をしても、頑張らないで結果が出てしまった時が一番よくないと言っています。このような経験を脳が覚えてしまうと、いざという時、ここが勝負という時に頑張れなくなってしまうという理論です。一方で、頑張ったけど結果が出ない。この状況は「私って駄目じゃないか」とか「これっていけないんじゃないか」「限界を見ちゃったんじゃないか」と思ってみんなが恐れてしまいがちですが、そうではなく、頑張っていない人より経験を積んでいて、学びがある分、次にまたチャレンジする力になる。森岡さんは「大切なのは頑張る習慣化」が大切とも言っていました。みなさんはどうですか。宿題は好きですか。勉強好きですか。家で親に「勉強しなさい」と言われて、「今やろうと思ったけど、言われてやる気がなくなった」などと、根拠のない言い訳をしていませんか。言われることが分かっているのであれば、言われる前にやる習慣化が大切です。逆に先に言われてしまったら負けで、親の勝ちです。勝ち負けの問題ではないですが、すべてのことには意味があります。目的を明確化して、「やりたいことをやる」ではなく、「やるべきことをやる」ことが重要です。

世の中ではよく「指示待ち人間」などという言葉で表現されることがありますが、やらされて動くことほど疲れやすかったり、面倒であつたりと感じることが多いと思います。「やらされる」のではなく「やる」。中学校(義務教育)というステージで、多くのことを経験し、夢に向かっていけるパワーを身につけ、創造力豊かに活動していったほしいと願っています。

今年度も保護者・地域の皆様には、様々な御協力を賜ることになるかと思いますが、何卒、本校生徒のために御尽力いただけると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。